

# サマリヤ会だより

財団法人 青十字サマリヤ会  
理事長 熊谷豊次  
館長 齊藤和夫  
札幌市南区藤野4条3丁目8番18号  
TEL 011-591-1921 FAX 011-591-8414

2008年6月発行

## 青十字サマリヤ館開設 30年を迎えて 理事長 熊谷豊次

財団法人青十字サマリヤ会は1978年11月、柴川正義理事長、Drロバート・カニングハム館長で発足しました。

私は1961年9月、名寄市立総合病院神経精神科医長に赴任、この頃アルコール依存症に対しては名寄断酒会を結成し指導していました。この関係から当時、中島のパークホテル2階での青十字サマリヤ館開館披露宴に名寄から出席し、その後、名寄から数人の方を紹介し、入館（この頃は断酒会とのかかわりでした）させて頂きました。名寄在職20年目の1980年3月退職、障害者年の4月から社会福祉法人（後に北翔会）重症心身障害児者施設札幌あゆみの園園長に赴任。1988年10月医療法人社団西の里恵仁会病院精神科医長、1990年同病院理事長院長となりました。

当時、理事の一人だった日本キリスト教団手稲はこぶね教会の久保進牧師から青十字サマリヤ館の理事長就任の要請を受けました。断酒会活動に関心があったから、素直に受け、1990年10月から柴川理事長の後任、二代目理事長になりました。

柴川理事長は北見出身で高校の先輩、私は北見教会会員、ご尊父様は当時、兄弟団のキリスト者と記憶していました。

その柴川理事長の後任になるご縁をしみじみと感じ入った次第です。

同年4月前大崎政弘館長が就任し、「酒なしで生きること（ソブライティ）」を重要とするAA（アルコホリクス・アノニマス）のプログラムを開始し、長屋敏男スタッフが約一年間協力され、当時私も月1~2回夜のミーティングに加わりました。

1991年、スウェーデンでの国際青十字連盟総会に大崎館長が出席、これを機に「アルコール依存者・薬物依存者への回復のプログラム」が作成され、1993年4月からこのプログラムで12&12のステップを繰り返し使ってミーティングをするようになり、同年11月23日勤労感謝の日に第1回サマリヤ館セミナーを札幌市市民会館研修室で開催しました。

1994年秋、大崎館長は精神障害者回復促進協会（社促協）太田隆男事務局長と東京都内のアルコール依存者の小規模作業所を視察、1995年1月、ふじの共同作業所を開所、道内初のアルコール依存者の小規模作業所として、4月札幌市に認可されました。1996年4月、青十字サマリヤ館は共同住居として札幌市から認可され、2000年4月、国の法内施設グループホームとして認可され、引き続き「酒なしで生きる」館独自の「回復のプログラム」でミーティングが続けられてきました。

2001年10月、ふじの共同作業所は小規模授産施設として認可され、サマリヤ館退館者で主に南区に在住する回復者のフルーツ・ティの缶入れ、ルバーブジャム作り、農作業、木工パズル製作等を作業内容の通所授産施設となりました。

2001年11月、グループホーム青十字サマリヤ館

入館者や退館まもない回復者のミーティングや作業のための通所小規模作業所として共同作業所サマリヤ・カンパニーを開所し、2002年4月札幌市より認可されました。

これまでの経過の中で、1992年6月、南区豊滝（サマリヤ館から約5km）に約71坪の耕作地、同年10月東京在住のキリスト者佐藤光子様寄贈隣地約82坪合計153坪の耕作地が取得されています。藤の沢に約100坪の借地があって、合計253坪の耕作地があり これらで入館者の食材の野菜類、ジャムの原料のルバーブ等を栽培しています。

入館者の大部分は道内の精神病院からで、一部は本州からの利用者もいた。1986年以来2008年4月までに225名入館、3月現在9名在館しているので、216名退館したことになります。毎年10名弱が退館し地元に戻るか、多くの方は札幌市内でAAのメンバーとして活動しています。中には精神保健福祉士の資格を取得、小規模授産施設のスタッフとして活躍された近江剛兄が2008年2月5日夜、召天、6日夜前夜式、7日朝葬儀式が小林牧師による司式で藤野福音キリスト教会において執行され、ご兄弟ご親戚の方々を含めて100名以上がお集まり下さった事はサマリヤ館開所依頼なかったことで、彼のアルコール依存を克服し、生前のご活躍と人柄がもたらした証として心から感謝した次第です。

開設以来、関係官庁は勿論、関係精神病院や道立精神保健福祉センターの精神科医、ソーシャルワーカー等の支援、ボランティア活動で支えられ、特に旭山病院の関係者には大変お世話になっています。

毎年勤労感謝の日に実施のサマリヤ館セミナーは市民会館改装のためここ数年間は「かでの2・7」で行い、今年第16回サマリヤ館セミナーは11月23日が日曜日なので11月24日（月）に開催するのがベターではないか、スタッフとよく相談し開設30周年記念事業と共に日程を決めたいと思います。

昨年3月で長い間、奥様共々ご活躍頂いた前大崎館長が退職され、後任に長く青十字サマリヤ館の理事をされ、長期間精神病院のケースワーカーとして勤務され精神保健福祉士の資格を取得されている齊藤館長を迎えることが出来ました。

齊藤館長の就任で、小生が懇案にしていた現在の財団法人から社会福祉法人への移行を昨年春から精力的に手がけて頂き、今年度中の認可の見通しも出来ました。社会福祉法人認可の暁には、30周年記念事業として、念願だったグループホーム青十字サマリヤ館新築に着手しようと考えています。

また、2002年4月札幌市認可の共同作業所サマリヤ・カンパニー（借家）は社会福祉法人化に伴い10年契約の車庫付きの新たな借家に移転することになりました。

開設30年記念事業が社会福祉法人認可を機に行われる事を心から感謝し、更なる前進発展の機会にしたいと思います。

## 青十字サマリヤ会で 働いて 館長 齊藤 和夫

青十字サマリヤ会で働いて1年が経ちました。昨年、前大崎館長が18年間働いた後にバトンタッチし微力ながらここまでやって来ましたが、カウントダウン的に言うと65歳の定年まで14年間分の1年間でした。

青十字サマリヤ会の1年間は思いのほか早く過ぎましたが、私の記憶から消えることのない出来事の連続でした。入館者が起こす問題や再飲酒で退館する人など、不安定な精神状態でコントロールが効かなくなっていく姿を見るのは一番辛いことです。何とか再度、回復のチャンスが与えられるように祈る日々です。

さらに、今年の2月5日に青十字サマリヤ館のスタッフであった近江剛さんを失ったことは、青十字サマリヤ会のみならず、AA（アルコールクス・アノニマス® 無名のアルコール依存症者たち）の仲間やご家族、医療、福祉、行政関係等の関わりがあった方々にとっても大きな悲しみの出来事でした。しかし、近江さんの回復したサマリヤ館退館後の1

7年間の歩みは多くの方々に励ましを与え続けた事  
と思います。私も1年間だけでしたが、共に働かせて  
いただき、多くの話の中で唆や励ましを受けま  
した。近江さん自身、不安の中で、今回の手術をす  
ることを決め、1月17日に入院し、22日の手術日  
を迎えました。その朝病室に行くと、荷物の整理を  
終えて、ベッドに座り「12のステップと12の伝  
統」と言うAAの本を読んでいて、私は元気な近江  
さんと少しの時間を二人で過ごしました。やはり不  
安のためか、病院スタッフの言葉に不満をもらして  
いましたが、担当の看護師さんには荷物の確認をい  
つものように、念入りにしていました。大きなバッ  
クをロッカーに詰めて、いよいよ手術室へ行く時に  
一言、「こんな歳になっても訓練を受けるんだな。」  
と言って、体をゆすりながらスタスタと歩いて手術  
室に入り、私は「行ってらっしゃい」と励ましの言  
葉をかけ、心の中で「立派に手術に臨まれた」「元  
気で帰って来てほしい」と思い別れました。手術後  
も苦しい試練の連続だったと思いますが、最後まで耐  
え忍びました。生前、サマリヤ館の話の中で、歴代  
の当事者スタッフの話が出てきたことがあり、当事  
者スタッフの精神的なストレスの問題を話していま  
した。いかにストレスが多く掛かるか等、私たちに  
伝えてくれました。近江さんは青十字サマリヤ館を  
愛し、今いるスタッフを宝物のように愛していました。  
私自身も近江さんのようには到底出来ないけれど、  
今後も残された時間を青十字サマリヤ会や依存  
症で苦しむ方々と共に歩んで行きたいと思います。

なお

今年のサマリヤ館セミナー（11月24日：かでの  
27 大会議室）30周年記念では近江さんのビデオ  
を流したいと思っています。



## 「住まう場」から「日中活動の場」

への移行期に関わって

サマリヤ・カンパニー運営委員長

理事 富田 政義

当時サマリヤ館は、入館者にとって生活の拠点で  
あり一緒に食事したり、団欒したり、起居を共にす  
るところであった。開設後しばらくの間は同館内  
での全員ミーティングやスタッフとの面談、そして午  
後はレクや畑作業、委託作業などが主な日課であ  
ったと思う。同館は国が定める共同生活援助事業  
としてのグループホームの性格上、「住むところ」と  
「活動するところ」を一緒にしてはならないという  
のが、当時の流れであった。

そのため、隣接の古いプレハブの物置を片付けて  
ミーティング場として使うという話もあった。しか  
し、幸いにも比較的近い、藤野中学校の隣接した  
ところに2階建て5LDKの良い物件が見つかった。  
大家さんの理解があり2002年4月、同所は共同  
作業所として札幌市から認可を受けた。同年6月  
15日、メンバーさんや大勢の関係者の方々が集  
い手作りの開所式を行うことができた。それが、  
共同作業所サマリヤ・カンパニーのスタートであ  
った。独自の点、財団法人のもとで運営をサマリ  
ヤ・カンパニー運営委員会が行い、地域の方々  
にも運営に参画してもらったことである。元札  
精作連理事、太田氏には新規の事業ということで  
多くの助言をいただいた。熊谷理事長、大崎館  
長と共に、札幌市にも出向いていただいたと聞  
いている。南区ときわ病院の精神科ソーシャル  
ワーカー佐野氏、藤野福音キリスト教会牧師  
夫人の小林氏、協力病院である旭山病院の副  
院長の芦澤氏にそれぞれ委員として加わって  
いただいた。所長としてソーシャルワーカーの  
中村恵氏が選任され、館長のご指導の下、札  
幌市に提出する関係書類など事務管理全般に  
わたって責任を持っていた。このようにさま  
ざまの方々のお力添え

で皆様と共に働くことができたことに感謝しております。

カンパニーにおける福祉実習生の受け入れについては、いつでもできるとは思わないが、スタッフがクローズドをオープンミーティングに切り替えていたことに大きな意義を感じている。ミーティングを通して依存症の凄まじい現実を垣間見ることができます。自分自身を認め、自分自身を語る勇気に、感動を覚えたと同様に語ります。さらに自助グループの果たす役割や、回復に向けたAAプログラムの力について、将来使える実践的な手法であることを学びます。できるだけ続けてほしいと考えます。

サマリヤ館の利用者が、今日も元気に「行ってきます」と出発、カンパニーに向かうそれぞれの姿を想い浮かべて。

## サマリヤ館の 働きを覚えて

OMF宣教師 W・ランハンス

“ですから、もし子があなた方を自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。

(ヨハネの福音書 8 章 36 節)

「日本はとても豊かな国だから、宣教師は必要とされていないでしょう。そして病院や学校を建てる必要もないでしょう。何故あなたはまだ日本で宣教活動を続けているのでしょうか？」母国へ一時帰国している間によく聞かれる質問です。確かに日本は世界有数の経済大国であり、宣教師の母国より豊かな国となりました。しかし私達は、豊かな生活を与えて来たのではなくイエスキリストの福音を伝えに来たのです。日本には素晴らしい病院、学校がありますが、人の人生を変えるような働きは足りないと感じています。

日本にはアルコール依存症で助けが必要な人々が

大勢いることを知り、ある宣教師がそのような苦しみの中にある人を救い出したいという思いからサマリヤ館を開設しました。

多くの人は自分の依存症の事実を隠し、周りの人に知らせようとはしないことから、一時的な助けよりも永続的な助けを与えることが重要です。多くの人は自分の抱えている問題や依存をどこに委ねたら良いのか分からないので、色々模索します。しかし人間の努力と助けには限りがあると思います。キリストはイエスキリストのみが人間を真の自由にできるということを信じ、その事を日々体験していますが、時にはこのプロセスには時間がかかる事でしょう。

OMFはサマリヤ会が独立し、依存症と戦っている日本人がイエスキリストを信じ、真の自由を手に入れる手助けをする働きをしている事を嬉しく思います。そして海外にもサマリヤ会の働きの事を覚え祈っている祈り手が与えられていること、またサマリヤ会の働きが拡大し豊かに用いられ、人々の人生に影響を与え続けていることに感謝します。

OMFはこれからもサマリヤ会の働きを覚え、祈ります。

## 近江剛さんの思い出

理事 大崎 政弘

青十字サマリヤ館を退職して早いもので一年になりました。在任中の多くの方々からのご厚誼を深く感謝を申し上げます。私は退職したらどんな生活になるのだろうかかと期待し、また、色々と思い描いては秘かな楽しみとしておりましたが想像通りとはいかないものです。自分の体調と相談しながら過ごすこととなったからです。そんなわけで楽しみとしていた釣りも山菜やきのこ採りも充分堪能したとは言えませんでした。それでも体調の悪い中、思いがけないほどの山女を釣りシメジやラクヨウきのこの収穫がありましたし、と

りわけここ銀山の多くの人たちと知り合いになることが出来ました。想定外ではありましたが収穫の多い、一年であったということが出来ます。また、折に触れて家内と共にサマリヤ館での様々な出来事を思い出しく語り合った一年でもありました。何度も話題に上ったのが去る2月に天に召された近江剛さんのことです。彼とは私たちがサマリヤ館に勤務するようになって以来の付き合いでしたから18年におよびました。サマリヤ館に来たばかりでまだ慣れていない頃のことです。当時週番という係があつて毎日夜の戸締りなどもしておりました。私が食堂でお茶を飲んでいると当時入館中だった近江さんが椅子の上ののって欄間（らんま＝部屋の上部にある小さな窓）の鍵を一生懸命かけているので「近江さん欄間の鍵はいいんじゃないの」と私が言いますと「いいや、泥棒が入るかもしれないからかけなければだめだ」と言い張るのです。「近江さんチョット考えてごらん、ここは男所帯で何人もゴロゴロいるし、時にはトラも出るところだよ。泥棒は恐がって入らないよ」と私は言いました。なるほどそれもそうだったのか、しばらく考えた挙句、結局はガッチリと鍵をかけたのでした。不安神経症の彼にはどうしても心配を払拭できなかったのです。

先日裏の山でまだ短いフキを採って来て今年初めてのキンピラをつくり、その美味しさに思わずサマリヤ館のフキ採りを思い出しました。みんなでフキを採った後に食べるお昼御飯を近江さんは特に楽しみにしていました。毎年、前年に採って塩漬け保存しているフキでつくったフキのキンピラ、鳥のカラアゲ、卵焼きと決まっていた。ただそれだけの質素ともいえる食事でした。彼は「これが食べたいためにフキ採りに来ているんだ」といつも言っていました。思えばこのように楽しい人と一緒に仕事ができたことは私たち夫婦にとって本当に幸せだったと思っております。私はずいぶん前からサムエル・ウルマンの「青春」という詩を愛唱し、サマリヤ館の働きに大きな勇気と励ましを得てきました。その一節に「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。」とあります。近江さんはこの「心の持ちかた」を追い求めていた人だったように思います。私も「年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。」の言葉や「簡素

な生活と高い思想」を追い求めて行きたいものと思っています。

## サマリヤ会との

### 関わりと使命

理事 小林 基人

すでに昨年秋の『サマリヤ会だより』に書いたことですが、私のアル中さんとの最初の出会いは、神学校を卒業して赴任した横須賀の教会でありました。まだ独身で炊事洗濯にも追われながら、多い時は週に5つほど説教の準備もするという超多忙な日々、そんな時、突然中年のアル中のおじさんが教会にやってきました。確かに背中に彫り物があり、昔ヤーサンだったというのもウソでないらしい。まだ20代半ばで血気盛んだった私は、6畳二間の牧師館で共同生活することを希望しましたが、教会の役員会で見事に却下され、近所に安アパートを借りて、そこに住んでもらいました。彼との2年間の生活は、私のこれまでの常識を見事に覆すもので、依存症についての正確な知識がない私は、今にして思えば「共依存」気味で、彼に振り回され通しでした。

その後、私は十年余り大学生のためのキリスト教団体が働くのですが、あの強烈な印象は消しがたく、生まれ故郷の北海道に戻り、気がつくともサマリヤ館のすぐ近くの教会の牧師になっていました。また頼まれてもいないのにサマリヤ館の理事会に陪席し、翌年には念願の(?)理事となりました。

その頃は宇都宮館長時代で、入館者全員が日曜礼拝と水曜夜の集会に教会に見え、私も木曜の夜はサマリヤ館に通って、旧約聖書の「箴言」の学びに参加していました。また隔週毎、入館者が二人づつ我が家に見えて夕食を共にし、親しくさせていただきました。その後、大崎館長時代にはAAのプログラムが導入され回復率が大幅にアップしました。またスタッフからプログラムを教えていただき、私も少しずつ依存症が何であるかを知ることができました。そして現在、経験

豊かな齊藤館長時代となり、サマリヤ会の将来に明るい展望が開けてきています。

とにもかくにも、依存症のおじさんたちと関わるのが、神さまから与えられた私の使命であるという強迫観念(?)にまだ捕らわれているようです。これからも宜しく願います。

## サマリヤ会の 名前と理念を大切に 理事 吉田 浩二

私とサマリヤ会との出会いは、おそらく 1991 年 9 月に富良野市で行われた AA 全道ラウンドアップであったと思います。当時私は富良野保健所にいました。地元保健所長として出席してほしいとのことで、事前に何人かのスタッフが保健所にご挨拶に見えました。大崎館長と八重樫さんという方だったような気がしますが、記録がありませんので確かではありません。私は初めて AA の集会に参加しましたが、タバコの煙がすごかったことと、アル中からの回復者の生の声がとても印象的だったことを覚えています。

さて、私はその後牧師に転身し、2003 年に現在の厚別福音キリスト教会に赴任しました。厚別福音キリスト教会は大崎前館長が一時籍を置いていたことや、前任の小杉牧師が理事をしていたこともあってなにかと縁があり、何もわからないまま請われて理事をお引き受けすることとなりました。

理事会の冒頭で熊谷理事長が毎回のようにルカの福音書 10 章の「良きサマリヤ人のたとえ」を朗読し会の理念が語られるのを何度も聞いて、新米理事として感銘を受けました。「サマリヤ会」の理念が浸透しているのを痛感したのは、スタッフの近江剛さんの葬儀の席でした。その日の朝の齊藤館長からの電話で突然の訃報を聞き、夜の葬儀に駆けつけました。皆さんからの思い出話に泣き笑いましたが、何より感動したのは喪主のお兄様のご挨拶でした。

お兄様は聖書をよく読んでおられる様子で、「良きサ

マリヤ人のたとえ」を正確に引用した上で、この葬儀の席に来てくださった人たちは、まさしくこの良きサマリヤ人だと語って下さいました。

私は少し遅れてきたためにちょっと離れたコンビニの駐車場に車を停めていましたが、帰りの駐車場で仲間の一人と思える人が一生懸命車を誘導してくださっている様子を見て、ああこの人も良きサマリヤ人だと、再び涙がこみ上げてきたことを覚えています。

「サマリヤ会」これからもこの名前と理念を大切に、一人でも多くの方がアルコールや薬物から解放されるように、この働きを応援していきたいと思っています。

## サマリヤ館の働きを

思わされて

監事 佐藤 隆

私は、サマリヤ館開設の数年後、藤野福音キリスト教会の集会等を通してサマリヤ館の方々を知り合い、サマリヤ館の大切な働きを知るようになりました。館長やスタッフ、また入館者同士が共にご苦労されているのをいつも耳にしていました。また、数年前から監事をさせていただいております。

私が初めてアルコール依存症の方と関わったのは、以前 JR に勤めていたときのことでした。岩見沢に列車運転の乗務員基地がありますが、私がそこへ赴任したとき、元運転士だった A さんは既にアルコール依存症で運転操縦業務不能者として所定外勤務をしておりました。ある朝、独身寮のまかないの方から緊張した声で電話が入りました。私は異常を察知してすぐに飛び出し、寮まで走りました。鍵を借りて中へ入ると A さんはベッドに横になったまま既に息を引き取っていました。部屋の中は雑然として焼酎のリットルビンが山になっていました。あとで聞いたことですが、亡くなる前の深夜、階段の中ほどに 1 人ボツンと座っていたそうです。アルコールを断ち切れず現場第一線の仕事から外され、家族にも見放され、家も家

族もあるのに独身寮で独り暮らしをしていたのです。

室内を見るとロッカーの中には会社が貸与した制服と1着の背広だけがあり、備品も古いものが少々あるだけで実に質素な生活をしていた事が伺えました。しかし、預金通帳には毎月積み立てたお金がびっくりするほどの額になっていました。派手な遊びをすることもなく、何時かまた家族とともに暮らせることを願いながら孤独な生活を送っていたのだと思います。でも、アルコール依存症を1人で戦って乗り越えることは出来なかったのです。

話は変わりますが、サマリヤ館の名前の由来は聖書の中の有名な箇所から来ていると聞いています。永遠の命を与えられるために何をしたら良いかとの律法家の問いに、神様を愛し、隣人を愛すること、と答えたイエスは、隣人とは誰かと問われ、サマリヤ人のたとえを話されます。強盗に襲われ半殺しにされた人を見て見ぬ振りをしたレビ人や宗教家と、かわいそうに思って助け、介抱し、休めるところを確保した(敵対していた)サマリヤ人をあげ、どちらが隣人になったかを問い、「あなたも行って同じようにしなさい。」と言われたのです。イエスの深いご愛は、私達にも同じことを求めています。

サマリヤ館の尊い働きと深い意義を改めて思わされております。

## サマリヤ館との出会い

### 監事 向 寛

昨年の9月から平均して月に2度か3度お伺いするようになると、サマリヤ館と私はいつ頃どこでどんな風にして出会ったんだろうと、今改めて思い出してみました。

私がある社会福祉法人に勤務してまして平成12年秋定年退職しました。同法人の役員と精神科医としてご協力をいただいていたのが理事長の熊谷先生です。

「急に仕事をやめてしまうとアルツハイマーが近くなるよ」との一言で社会参加共同作業所にお世話してい

ただき、その系列に「ゆったり」という作業所の施設名で喫茶店と言う市内で数少ない店がありました。ある日、店の様子を見ながら客としてコーヒーでも・・・と思いでかけました。

店内に入ったらすれ違いに50歳代の男性が四角な缶を数個カウンターに置いて出て行きました。私「今の人誰?」メンバー「紅茶を運ぶ人」私「どこから運ぶの?」メンバー「サマリヤ館」・・・はじめてサマリヤを耳にしました。ハハア、サマリヤ館とは、紅茶やコーヒー豆などを卸している間屋さんだと早合点してしまい、その間屋の建物は「サマリヤ」という音声から小高い丘の上に建つ古くてシャレた洋館を連想しました。

でもこの連想は3ヶ月ほどの間でした。

その後「サマリヤ館」と「ゆったり」のつきあいは「ゆったり」が平成19年10月の閉店まで続きました。

\* 運び屋さんは = 近江さんです。

\* 紅茶 = ほんとうはドイツから輸入したフルーツティだそうです。



青十字サマリヤ館支援員の  
近江剛さんが2008年2月5日  
社会保険中央病院において  
召

天いたしました。ここに生前に  
賜りましたご厚情を心から感  
謝し、謹んでお知らせ申し上げ  
ます。

#### ご 案 内

納骨式：(墓前礼拝) 7月13日(日) 午後1時頃  
午後1時に藤野福音キリスト教会を出発予定。  
場 所：簾舞霊園「藤野福音キリスト教会墓地」  
にて(入り口案内所にてキリスト教墓地区分と  
お聞き下さい。)

## 献品・献金

いつも当会の活動をご支援下さいまして誠にありがとうございます(順不同・敬称略)

2007年11月～2008年6月

### 【団体】

藤野福音キリスト教会・東栄福音キリスト教会・砂川福音キリスト教会・帯広栄光キリスト教会・栄福音キリスト教会・厚別福音キリスト教会・日本キリスト教会札幌白石教会・日本キリスト教会札幌豊平教会・平岡福音キリスト教会・日本メノナイト帯広キリスト教会・日本キリスト教会札幌北一条教会・足寄キリスト教会・カトリック真駒内教会・(株)中条・日本キリスト教団真駒内教会・長野病院・札幌羊が丘教会・幌向小羊教会・高森キリスト教会・日本メノナイト上士幌キリスト教会・日本キリスト教会伊達教会・日本キリスト教会北見教会・日本基督教会札幌桑園教会・ウェスレアン・ホーリネス教団札幌新生教会・手稲福音キリスト教会・ひかりあれ・札幌西福音キリスト教会・札幌ナザレン教会

### 【個人】

関根弘子・齊藤和夫、千恵子・佐々木至・とおる・中川祐子・大井博子・相馬のぞみ・佐藤悦子・鈴木保夫・近江啓・菊地紀子・広瀬敬次郎・岡田純・石川眞由美・小林由貴子・鹿野真澄、晴美・向寛・村田充子・上野雅章、きよみ

### 【献品】

土田恭子・池川貞・松尾巖人、知子・渡辺慶人・加藤武彦

### 《編集後記》

\* サマリヤ館に勤めて10年たったと思います。もうすこしで60歳の還暦を迎えます。かなり中古になっています。相棒が天国に行ってさみしいです。 だけどサマリヤ館の職員みなやさしい。サマリヤ館の仲間、AAの仲間もいます。ありがたいです。支えられています。(J・O) \* ありがとうございます。(K・Y) \* 今度の年度末が定年です。 最後だから心を込めて仕事をしようと思いましたが はたしてそのようになっているのでしょうか? 新しく建て替えられるサマリヤ館を早く見てみたい・・・(T・Y) \* 次は30周年記念誌でお会いしましょう!!ぜひふじのに みなさん遊びに来て下さい。(T・F) \* サマリヤ館の事務所に置いてある“からし種”の黄色い花が咲いた後に“からし種”が生りました。なんと小さい種であろう。実際に見ることにより、キリストが言った言葉が自分の現実と照らし合わされる。 マタイ 17:20 (S・K) \* 歳だ!ガタ来てボケてきた。(S・K)

\* 藤野に来て一年が過ぎました。6月にせみが鳴いています。昨年もそうだったんだっけ?気がつかなかったゾ。(ちえこ) \* 4月からお世話になっています。季節が進むにつれて、新緑の中で深呼吸中です。(O・Y)